

53年度 ワカメ種苗生産配付事業

竹内 四郎

前年度に引続いて、ワカメ種苗を生産し、県内各地へ配付し乍ら、室内管理、沖出し等の芽落ち防止について、技術指導を行なった。

1) 事業概要

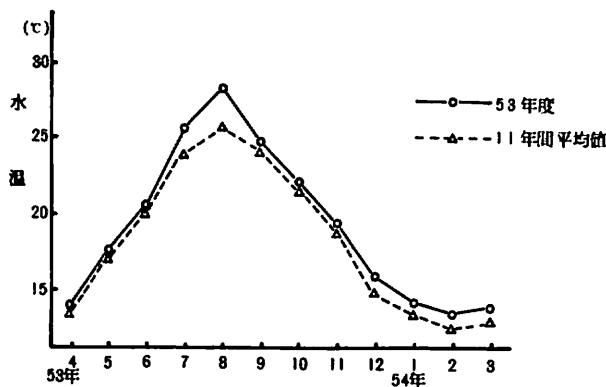
5月22日に、試験養殖中のワカメ成実葉(メカブ)250Kgを採取し、1晩蔭干ししたものをを用いて、5月23日(水温18.4℃)、52000mを採苗した。10ℓ20mより、約2時間で作業を了えた。当初1000~3000ルクスの照度になる様にスタレ等で調節し、6月16日に、リン酸ソーダ500g、硝酸カリ2500gの割合で施肥を行ない、途中水槽内のワカメ枠の上下変更をし、水温が25℃内外に上昇した7月3日より、暗黒(100ルクス内外)にした。10月初旬に水温が24℃内外となったので、序々に明るくしてゆき、10月23日と30日に、前記と同量の施肥を行ない毎週1回宛検鏡を続けたが、下旬には芽の大きさが80~100ミクロン(芽胞体50%)に成育し、順調であった。出荷は11月上旬から中旬にかけて行なったが、出荷地での成育も順調という連絡を受けた。

2) 結果

本年は第1図にみられるとおり、前年に引続き夏季水温は高目で、雨量も少な目であった。また



第1図 旬別水温



第2図 月別平均水温

第1表 ワカメ配付状況

配付時期	配付先	配付数量
出雲地区		
53. 11. 1	野 波	15,550 m
11. 6	美保中央	14,400 "
11. 6	野 井	4,700 "
(小計)		(34,650 m)
隠岐地区		
11. 7	浦 郷	5,000 m
11. 7	黒 木	5,200 "
(小計)		(10,200 m)
合計		44,850 m

10月に入ってからからの下降も順調で、配偶体から芽胞体への移行も下旬には50%以上了え、11月上旬には、殆んど芽胞体となり、大ききも500ミクロン以上のものが大半となって来たので、出荷も中旬までに終了した。出荷状況は第1表のとおりであった。

53年の夏(7・8月)は過去11年間の平均と比べて約2°C高目であり、9、10、11月には、0.5°C内外高目、12~8月にかけても0.4°C~1.4°C高目に推移し、明らかな暖冬型を示している。ワカメの育成については、沖出し時期の水温は21°C~19°Cで例年並であったが、晴天のおだやかな日和が続いたため、芽落ちについて心配されたが、各地の報告によると、芽落ちの多い所と大したことのない所があり、全体的には例年よりも少々芽落ちは多かった様に推察された。